

子どもをめぐる経済格差——すべての子どもに平等なチャンスはあるか（要約版・日本ユニセフ協会訳）

ユニセフ・イノチェンティ研究所報告書「レポートカード 20」

経済的に豊かな国で暮らしているからといって、すべての子どもが等しく幸せで健康であり、かつ同じ水準の学力や社会的スキルを身につけているとは限りません。ユニセフ（国連児童基金）イノチェンティ研究所の「レポートカード（Report Card）」シリーズの最新報告書は、経済格差が子どもたちのウェルビーイング（幸福度）に及ぼす影響を分析しています。

本報告書は、高所得国に分類される国または、経済協力開発機構（OECD）に加盟する国の計 44 カ国を対象に調査を実施しました。

子どもたちのウェルビーイングと経済格差の関係を分析する本報告書は、次の問いを投げかけています。

- 国自体が豊かであっても、なぜ子どもたちの間に格差が生まれるのでしょうか。
- 格差は子どものウェルビーイングにどのような影響を及ぼすのでしょうか。
- 子どもたちは格差をどのように捉えているのでしょうか。
- すべての子どもに平等な機会を実現するために、何ができるのでしょうか。

経済的に豊かな国々における子どものウェルビーイング

イノチェンティ研究所のレポートカードシリーズの各報告書では、子どものウェルビーイングに関する主要分野について、各国の状況を比較し順位づけを行っています。「レポートカード 20」（以下、RC20）は、精神的幸福度、身体的健康、学力および社会的スキルの 3 つの側面について、データが得られた 37 カ国の総合順位表を掲載しています（巻末）。この順位表は、調査対象国におけるさまざまな強みと弱みを示しています。

例えば、オランダ、デンマーク、フランスは総合順位表の上位 3 カ国であり、3 つの側面それぞれにおいても上位にあります。ただし、大半の国では、分野によってばらつきがあり、ある側面で良好な結果が出ていても、別の側面では課題が見られる場合がほとんどです。

豊かな世界に根強く残る貧困

世界で最も裕福な国々はますます経済的に豊かになっていきます。しかし、その拡大する繁栄の一方で、各国内には依然として大きな格差が残っています。所得格差が最も小さい国々でさえも、所得分布の上位 20% に属する人々の所得は、下位 20% の人々の 3.5 倍に上ります。所得格差が最も大きい国々では、その差は 7 倍を超えています。

では、こうした格差は子どもたちにどのような影響を及ぼしているのでしょうか？ 報告書によれば、国内における富裕層と貧困層の格差が大きいほど、身体的健康、精神的幸福度、そして学力および社会的スキルが平均的に低い傾向にあることが示されています。

さらに、低所得層に表れる格差、すなわち子どもの貧困も、依然として高止まりしています。調査対象のすべての国で少なくとも 10 人に 1 人の子どもが貧困状態にあり、その割合はデンマークの約 10% から、コロンビアとコスタリカの約 37% まで幅があります。

経済格差と子どもの人生との関係

経済格差は子どもたちの身体的健康、精神的幸福度、そして学力・社会的スキルの発達と密接に関係しています。

身体的健康

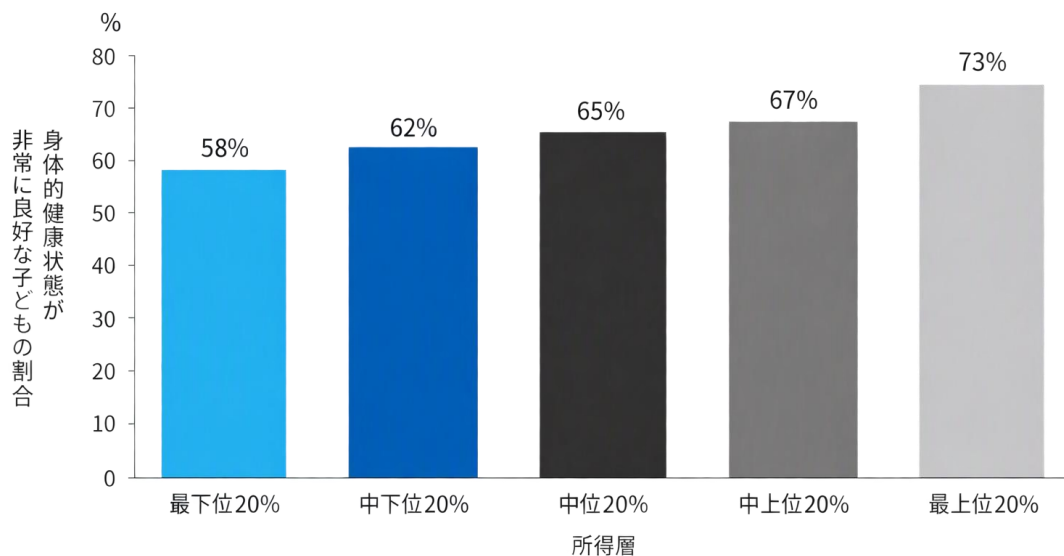
格差の大きい社会で暮らす 5～14 歳の子どもは死亡率が高く、また過体重になりやすい傾向があることが示されています。子どもの死亡率は全体としては大幅に低下しているものの、一部の国では増加の兆しが見られます。経済格差が最も大きい 5 カ国の子どもの死亡率は、平均すると、経済格差の最も小さい 5 カ国の 2.4 倍となっています。

格差の大きい社会で暮らす子どもは、過体重と肥満になるリスクが高いことがわかっています。子どもの食生活や栄養状態は、家族が購入し調理できる食品の質に大きく左右されます。低所得世帯にとって、健康的な食品を購入することは難しく、高カロリー食品に頼らざるをえない場合が多いため、子どもが過体重や肥満になるリスクが高まります。

格差が最も大きい国々の過体重の子どもの割合は、格差が最も小さい国々の 1.7 倍となっています。

実際、経済格差は子どもの健康全般にも影響を及ぼしています。欧州連合（EU）では、所得層の下位 20% の世帯の子どものうち、健康状態が非常に良好なのは 58% にとどまる一方、上位 20% では 73% に上っています。

図1. 身体的健康状態が非常に良好な子どもの割合、所得層別（EU、2024年）

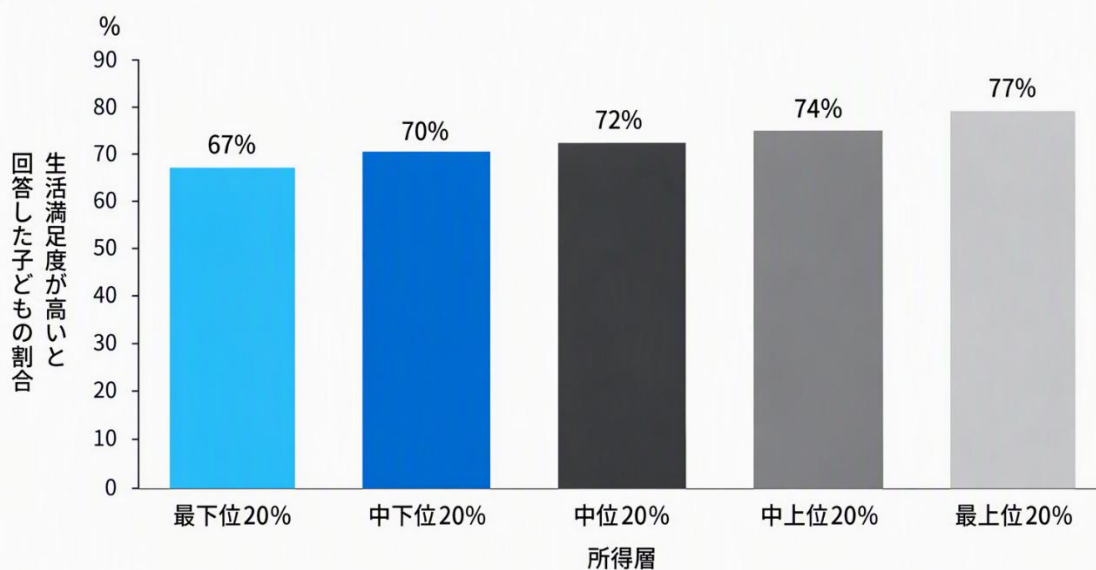


出典：EU統計局（ユーロスタット）。詳細はRC20 原文の Technical Appendix を参照のこと。

精神的幸福度

経済格差は精神的幸福度の格差にも関係しています。生活満足度が高いと回答した子どもの割合は、最も社会的・経済的に優位な家庭では約 77%であるのに対し、最も不利な家庭では 67%にとどまっています。

図2. 15歳の子どもの生活満足度、社会経済的背景（所得層）別（2022年）

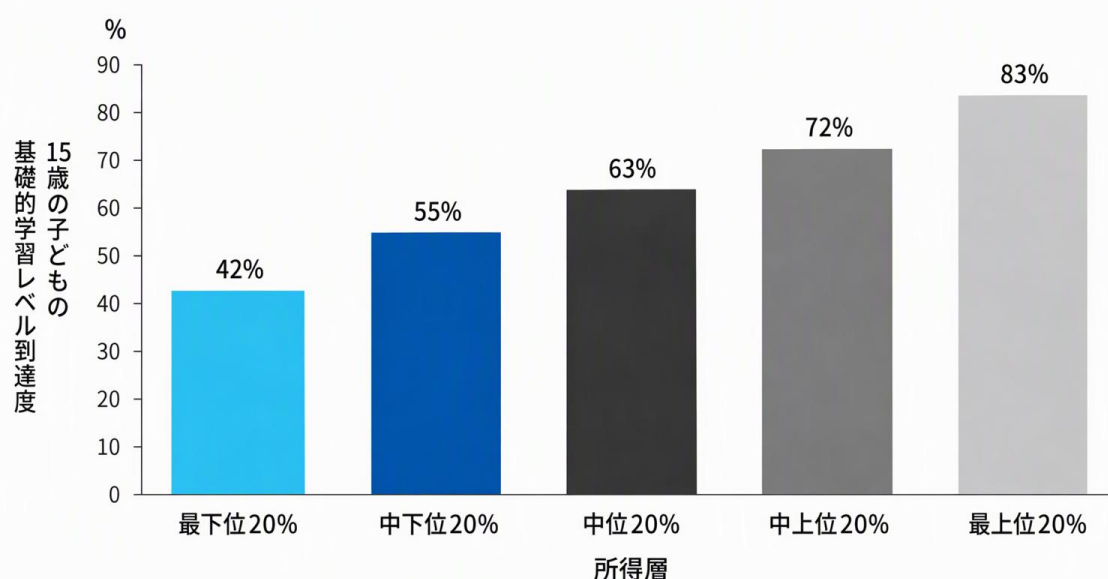


出典：PISA2022を基に算出。詳細はRC20原文の Technical Appendix を参照のこと。

子どものスキル

所得格差は、子どもたちの学力や社会的スキルの発達にも影響を及ぼしています。調査対象国では、15歳の子どもの学習到達度に顕著な差が見られました。平均すると、高所得世帯の子どもが15歳までに読解と数学の基礎的な習熟度に達している割合は83%であり、低所得世帯の子どもの42%に比べて、約2倍になっています。

図3. 15歳の子どもの学力、社会経済的背景（所得層）別（2022年）



出典：PISA2022を基に算出。詳細はRC20原文のTechnical Appendixを参照のこと。

経済格差が子どもに与える影響

報告書は、経済格差がどのようにして、社会経済的に不利な立場にある子どもたちに影響を及ぼすのかを分析しています。経済格差は、子どもを取り巻く環境、すなわち家庭や近隣地域、学校において利用できるリソース（子どもの成長を支える環境や機会）の格差と、対人関係や日々の活動など子ども自身の世界における格差の双方を生み出しています。

- 経済的に不利な状況に置かれている子どもは、平均的に、家庭、近隣地域、学校において環境や利用できるサービスや学習機会（リソース）が少なく、その質も低い傾向にあります。例えば、住環境の質が低いこと、食料不安（個人や世帯が経済的やその他の理由によって十分に食事ができない状態）に陥りやすいこと、学校を含む地域サービスの質が十分でないこと、汚染をはじめとするより深刻な環境問題にさらされやすいことが挙げられます。
- また、日々の暮らしにも明らかな差異が見られます。例えば、食事の質が低いこと、運動の機会が少ないこと、学業より働いてお金を稼ぐ方に時間を割くことが挙げられます。

この影響の連鎖は最終的に、子どもたちの身体的健康、精神的幸福、学力および社会的スキルの格差に繋がります。

子どもたちはどのように格差を経験し理解しているのか

6カ国の子どもたちを対象に実施された調査では、子どもたちが格差の存在を強く認識しその実態を理解していることが示されました。

「もし友達に遊びに誘われても、家が貧しくて一緒に出かけるお金がなければ、仲間から取り残されてしまうかもしれない」

——コロンビアの子ども

子どもたちは話し合い、格差のさまざまな側面を挙げていきました。そこには、経済的な要因に加え、ジェンダー、障がい、人種、民族、移民・難民といった法的身分によって生じる差異や差別、さらには外見といった身体的特徴による格差も含まれていました。

「ロマの女の子は勉強しないという思い込みから、たとえ成績が良かったとしても、彼女たちを特別支援学級に入れる学校があるんです」

——スペインの子ども

子どもたちはこうした格差を特定しただけではなく、それらが根差している、教育制度、政府、公共政策などさまざまな制度や環境についても指摘しました。さらに、こうした格差を解消するための方策も提案しました。

「子どもたちにも選挙権を与え、子ども向けの社会支援にもっとお金を使うべきです」

——スイスの子ども

格差による子どもたちへの悪影響を最小限に抑えるために、各国ができること

経済格差はリソース（子どもの成長を支える環境や機会）の格差だけでなく、他のさまざまな形で、子どものウェルビーイングに影響を及ぼします。経済的に不利な状況にある子どもたちとその家族は、生活のさまざまな場面でより大きなストレスやスティグマ（社会的偏見）、差別に直面することが少なくありません。政府や関係者は、格差が子どものウェルビーイングに与える影響を最小限に抑えるために、特に子どもの貧困の削減を通じて、さまざまな政策分野で行動を起こすことができます。

行動には次のものが含まれます。

- ・ **セーフティネットの強化。** いかなる子どもも貧困の中で育つことがないよう、家族手当や児童手当、最低賃金などを整備・改善する。

- ・ **生活環境とサービスの改善。**公営住宅や家賃補助の提供、社会経済的に恵まれない地域のインフラ整備、緑地やレクリエーション施設などの公共施設への投資を行う。
- ・ **教育における格差の是正。**社会経済的理由によって生じた学校間の分断を縮小し、子どもの家庭の経済的背景にかかわらず、学校に十分な教職員と設備を確保するとともに、健康的で栄養価の高い学校給食を提供する。
- ・ **子どもと対話し、意見を聞く。**格差が子ども自身やその家族にどのような影響を及ぼしているかについて、子どもたちの視点をよりよく理解し、彼ら、彼女らのウェルビーイングの向上につながる解決策を共に考える。
- ・ **データ整備とモニタリング体制の強化。**十分なリソース（子どもの成長を支える環境や機会）を有する国でも、ウェルビーイングの多くの側面について、未だデータが不足している。また、経済格差が他の社会的格差とどのように関連しているかを分析できるよう、人々の属性別に分類されたデータを充実させる。

ユニセフ・イノチェンティ研究所 子どものウェルビーイングの総合順位表

以下は、子どもの身体的健康・精神的幸福度・スキルの3つの側面に基づき、37カ国を比較した、RC20の総合順位表です。

総合順位	国名	身体的健康	精神的幸福度	スキル
1	オランダ	5	1	11
2	デンマーク	1	4	7
3	フランス	2	12	9
4	ポルトガル	10	3	21
5	スイス	8	15	6
6	アイルランド	11	24	1
7	リトアニア	13	13	13
8	スペイン	22	5	17
9	ルーマニア	24	2	22
10	ハンガリー	29	6	14
11	スウェーデン	14	16	15
12	イタリア	17	10	25
13	スロベニア	16	29	2
14	フィンランド	23	17	16
15	クロアチア	34	7	4
16	オーストリア	20	23	8
17	日本	3	32	12
18	ラトビア	12	9	29
19	スロバキア	25	11	26
20	アイスランド	6	26	27
21	チェコ	4	25	31
22	カナダ	27	22	20
23	ギリシャ	26	8	33
24	英国	21	28	19
25	ドイツ	15	21	34
26	マルタ	19	18	35
27	韓国	30	34	3
28	ブルガリア	32	14	32
29	エストニア	28	30	24
30	ポーランド	18	31	30
31	コスタリカ	37	20	39
32	ニュージーランド	33	37	23
33	コロンビア	39	27	37
34	ウルグアイ	35	35	38
35	メキシコ	41	19	40
36	トルコ	36	36	36
37	チリ	40	33	41
	オーストラリア	31	n/a	18
	ベルギー	7	n/a	5
	ノルウェー	9	n/a	10
	米国	38	n/a	28

出典：ユニセフ・イノチェンティ研究所。詳細はRC20原文のTechnical Appendixを参照のこと

注：利用可能なデータが不足していたため、キプロス、イスラエル、ルクセンブルクの3カ国は総合順位表に含めることができませんでした。これら3カ国は利用可能なデータがある場合は、本報告書の他の分析に含まれています。また、生活満足度に関するデータが欠けていたため、オーストラリア、ベルギー、ノルウェー、米国の4カ国については総合順位を付けることができませんでした。